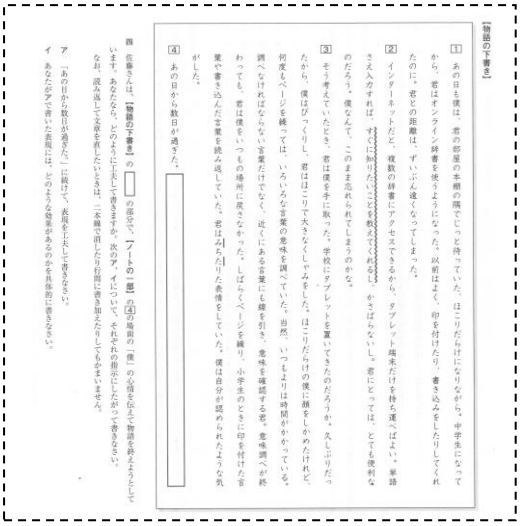
令和 6 年 4 月 18 日実施　全国学力・学習状況調査 【中学校　国語】 松山市の調査結果の概要

1 国語について

全国と松山市の調査結果を比較すると、平均正答率はほぼ同じ状況でした。

学習指導要領に示されている「知識及び技能」の領域は全国平均とほぼ同じ状況であり、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域もほぼ同じ状況でした。

2 分析結果から特徴が見られた問題



2一一

正答　1と2

全国の正答率　　36.3%

松山市の正答率　全国の正答率とほぼ同じ

3一四

正答例

ア（あの日から数日が過ぎた。）窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

イ「窓から差し込む光を浴びながら」のように情景を描写することで、「僕」の期待感が印象的に伝わる。

全国の正答率　49.3%

松山市の正答率　全国の正答率を下回る

3 考察

2一一は、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題です。「図さまざまな形の葉」が、読み手が第一・二段落を受けて、実際の葉の形を思い浮かべたり、実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けたりする際に、それを助ける役割をもつことを捉えることができていなかったことが考えられます。3一四は、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題です。無解答率や条件を満たさない解答の割合が全国平均よりやや高く、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書くとともに、工夫した表現が、「僕」の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書くことができなかった生徒が多いと考えられます。

4 これからの学習にあたって

説明的な文章は、例えば、文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりするため、読む際には、このような特徴を踏まえて読み、その理解が恣意的なものとならないよう、叙述を基にその構造を適切に捉えることが重要です。

物語を創作する際には、登場人物や場面、状況等を設定し、発端から結末までの展開を考えて書くことのほかに、それまでに読んだことのある物語の構成や展開を参考に書くこと、与えられた設定の中で展開を膨らませて書くこと、自分の経験を基に書くことなどが大切です。